

に、その幼児が生きているべきものです。したがって個性もその中に存在するはずです。ただその表れが、強く表れるか、極く微弱であるかは、表現の自信と能力にかかっているので、徒らに否定的評価をしてはなりません。自信と能力を与えるのは教師の指導にかかっているといえるものです。

良き指導者のもとでは、幼児の造形能力はすばらしい表現力を發揮するものです。その可能性は無限ともいえましょう。また、秀れた指導者は、正しい評価をし得る者で、幼児の創造性や美感を、過少評価してはなりません。

幼児の純粋な心は、幼児なりに本質にふれていることを、知るべきでしよう。

幼児の作品に向かつたら、先ず評価することをわすれ、心を無に

して見つめることです。その中に、その幼児の姿が見え、次に評価すべき良さも、欠けた点も感じられてくるのです。これは鑑賞の態度と同じで、はじめから、評価点を見いだそうとする何かの概念にさまたげられて、正しい評価ができなくなるのです。このような気持で教を重ねていくうちに、直観がはたくようになり、評価力も生まれてくるのです。

また、作品から、その幼児の活動状態も感じられるようになるし、幼児の作品の中から美しさが感じられるようになるはずです。造形に対しての鑑賞、評価は、その人がある程度の造形的教養をもつことによってできるのですから、幼児教育にたずさわる我々は、常に自から創造性と美的感覚の練磨をおこたらぬようにしたいのです。

(ゆかり文化幼稚園長)

### 幼児教育における評価

## リズミカルな運動の分析

戎 喜 久 恵

昭和三十九年三月に幼稚園教育要領が改訂され、今まで、幼児指導要録の改訂が呼ばれている時、わたくしらは評価の問題について真剣に考えねばならないと思う。

本園では幼稚園教育要領の改訂後直ちに、これまでの教育課程を改善し、これにより現場での実践活動を開拓した。この実践活動を通して幼児の現実の姿を客観的にはあくし、幼児が教育の目標に向かってどれだけ成長発達したか判断するため、より適確な評価を行なうように努めている。

そして、この評価を利用して、それぞれによって用いられた指導方法や教材の有効性を反省し幼稚園教育の向上を目指して研究を進めてきた。しかし四月以来の研究は、ここに発表するまでのまどまりを得ていないため今回は幼稚園教育要領の健康の「いろいろな運動」に興味を持ち、進んで行なうようになる」のねらい中、リズミカルな運動に重点を置きこれまでの研究集積から得た具体例について述べてみよう。

表		身長	体重	胸囲	座高	平田式体格判定法による結果	
年齢	性別					1身身体 充実指 数	肥瘍 比胸囲
一年保育	男	二五・二	三〇・六	五五・〇	七一・〇	一三・四	一三・四
	女	二二・五	二八・八	四五・五	六〇・〇	一四・五	一四・五
二年保育	男	二四・三	二九・六	五五・六	七一・〇	一三・二	一三・二
	女	二三・七	二七・七	五七・七	七一・〇	一三・一	一三・一

リズミカルな運動の指導に当つては、個々の幼児の発育、生理、能力、遊びの傾向、リズム的動きの具体的評価など、身体諸機能やその傾向性を明確につかんでいなければならない。

健康の領域は評価やテストの数量化が比較的容易であるが、とくに統計的処理を必要とするものについての算出方法などをじゅうぶんに研究して誤りのないように適確に処理するようにした。

### 1. 発育の面から

#### A 形態的測定結果（五才児）

は表のようになつた。

#### B ローラーの身体充実指数と平田式絶対的体格判定法による総合判定の相関係数

#### ・二年保育男子 ○・五六・同 女子 ○・五五

#### ・一年保育男子 ○・五六・同 女子 ○・三三

#### この結果から、両者はかなりの相関があると考えられる。

#### 2. 生理の面から

（五才児）次頁2表のようである。

#### 3. 運動能力（五才児）

は次頁3表の通りである。

自由遊びの生活内容について一学期間を

通して計画的に個々の幼児について午前九時から午前九時三十分までの間に行動観察を実施し、その内容を六領域に分類整理してみた。

健康 四一%

社会 二六%

自然 九%

言語 一三%

音楽リズム 六%

絵画製作 五%

&lt;3表&gt;

幼児		身長		体重		体力テスト			
男	女	男	女	25m	立巾と投げ	時間	片足連続跳	身体支	
二年保育		一四八	一九一	五八	三七一	三二	三二	五八	
	男	二二一	二七六	六五	二六九	五六	五七	五四	
一年保育		二三〇	元三	五九	二三二	三五	三三	五八	
	女	二〇八	一九一	六五	二六八	五四	三四	五四	

&lt;2表&gt;

幼児		呼吸		一日の排尿回数		睡眠		体温		着衣	
男	女	男	女	朝	昼	晚	四月	一月	朝	晩	
二年保育		金・三	一八九	六一	一〇五	三三	三六	三六	五二	五二	
	男	合・七	元六	五九	一七	三三	三六	三四	五二	五三	
一年保育		夫・六	五六	六六	一〇四	三三	三四	三四	二八	四五	
	女	大・三	一九二	五八	一〇六	三三	三四	三四	二八	四五	

この健康の四一%の中には幼児の活動的遊びが多く含まれ、平衡性、筋力、敏捷性、柔軟性、工率、関節部の柔軟性、腕の運動、体側の運動、足と踵の可動性、筋肉の弛緩などについての活動が見られた。

#### 4. リズミカルな運動の面から

##### Ⓐ リズム遊びの総合評価

次のように五段階評価を試みた。

- ・ 5 リズム遊びを楽しみ、動きが正確で表現に豊かさがある。
- ・ 4 動きが正確であるが表現にやや豊かさを欠く。
- ・ 3 動きの正確さ、表現の豊かさが普通。
- ・ 2 動きがときどき正確さを欠き、表現が粗雑。
- ・ 1 動きが不正確で表現が自由にできぬ。

この結果は幼児体操の評価とともに述べる。

##### Ⓑ 幼児体操の総合評価

幼児体操の一か年または二か年の経験の結果到達した個々の幼児の結果をまとめて総合評価をした。このためには指導の過程を定期的に評価し、その資料を集めた。とくに觀察法や測定法など広く取り上げて確かな判定を行なうように努めた。この場合写真撮影による方法は判定を非常に容易にした。

この結果はリズム遊びの総合評価同様五段階評価を試みた。  
 ① 動きが大きく正確で、終始音楽に合わせて喜んでする。  
 ② 動きの不正確な部分が多く、リズムが乱れるときがある。  
 ③ 動きが正確でまじめにする。  
 ④ 動きが正確でまじめにする。

&lt;4表&gt;

項目	幼児	総合評価結果			
		男	5	4	3
二年保育	男	二・七	元・四	三・三	三・六
二年保育	女	三・五	四・七	三・〇	一〇
遊び	男	二・一	三・三	三・九	一〇
遊び	女	二・七	四・三	三・三	一〇
一年保育	男	二・一	三・三	二・二	一・六
一年保育	女	二・七	四・三	二・七	〇
二年保育	男	一・九	元・四	四・一	一・七
二年保育	女	三・〇	三・七	三・三	一・七
幼児	男	三・五	七・八	三・三	一・〇
幼児	女	三・〇	三・七	三・〇	一・〇
体操	男	三・五	七・八	三・三	一・〇
体操	女	三・〇	三・七	三・〇	一・〇
一年保育	男	三・五	七・八	三・三	一・〇
一年保育	女	三・〇	三・七	三・〇	一・〇

• 1 動きが不正確でリズミカルにできない。

◎ リズム形態記憶テスト（山松先生考案）

方法は呈示刺激一〇種目のリズム型を聞かせて、後でこれを記憶したとおりに表現させる。その採点標準は5段階評価によって行なつた。

とくに正確さを必要とするために、すべてに録音機を使用するようにした。その結果は5表のとおりである。

#### 二年保育児と一年保育児のリズム記憶検査（二月実施）

リズム形態記憶検査結果から考察すると2・4拍子と3・4ならびに6・8拍子のリズム記憶について男女総合して二年保育児が相対的散布度が少なく、これに比して一年保育児は相対的散布度が大である。これは2・4拍子は発達的傾向からみて

&lt;5表&gt;

項目	男	二年保育		一年保育	
		女	男	女	男
2・4拍子（五問題得点）	二七	三二	二五	二五	二六
3・4拍子（五問題得点）	四六	四六	四七	四七	四三
計	四二	四六	四七	四七	四三
一人当たりの総合得点	三・五	三・〇	三・二	三・九	二・九
2・4拍子一人当たり得点	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九
3・4拍子一人当たり得点	一・〇・六	一・〇・一	一・〇・八	一・〇・八	一・〇・六
予の相対的散布度	二・四	三・四	二・九	二・八	二・六
拍子と3・4・6・8拍子の相対的散布度	二・四	三・四	二・九	二・八	二・六
標準偏差	三・二	一・九	三・二	三・一	二・九

も比較的容易であるために、リズム再生において、その経験の少ないものでも2・4拍子の得点はせんに多く、これに反して3・4や6・4拍子のように比較的困難な拍子には教育的経験が影響するものと考えられる。従つてリズム再生における発達的傾向は3・4や6・8拍子において明らかに認められるようだと思ふ。

⑩ リズム遊びの総合評価と諸評価やテスト結果の相関係数（スピアマンの列位差法による）（6表参照）

リズム総合評価と諸評価などの相関係数を明らかにして、今後に大いに役立てようと考えた。

この度のリズム遊びの総合評価は個々の幼児の瞬間の動きをとらえるために、多くの困難な問題が伴い、この表からみても決して望ましい結果とは考えられない。

&lt;6表&gt;

年 保 育	性別	年 齢	リズム遊びと相関係数			身体充 実指 指数		
			幼児	リズム運動	記憶			
二年保育	男	○・六	○・八	○・三	○・五	○・一	○・四	○・二
	女	○・七	○・一	○・六	○・三	○・三	○・五	○・七
一年保育	男	○・五	○・四	○・一	○・二	○・四	○・五	○・二
	女	○・四	○・四	○・一	○・三	○・四	○・五	○・三

評価の観点もこれから大いに研究をし妥当性があり信頼度の高い、しかも評価方法が容易なものを得るために、これを資料として研究しようと思つてゐる。

以上リズミカルな運動について、幼児の一年年または、二か年の経験の結果到達した姿を分析し、その結果をまとめたものについてここに一部を取り出してみたが、個々の幼児についての適確な評価を実施することは容易なことではない。

わたくしどもは日々の園生活において幼児を見つめ、幼児が教育の目標に向かって活動する姿を具体的に記録し、これを集積して評価し、明日を築いていかねばならない。

以下この度の総合評価からリズミカルな運動について今後の指導上の留意点を述べてみよう。

### (1) リズミカルな自由表現の指導

音楽リズムの指導書で一応明らかであるが幼児の全身での語りかけを、じゅうぶんに受けとめて、幼児の今の時期の成長をさせための適切な指導が必要である。

五才になつても全身のこなしが自由でない幼児は何倍もの努力をしても集団から落ちこぼれようとする。

「すべての幼児の身体全体はいうべきことばを持ち、表現すべきものを持っている。身体は自らを表現する最大の機関である」とヒーザ・ゲルはいつてゐる。

幼児のからだがその年令として自由に動き内的生命の躍動が自由に全身で表現されるような楽しい世界に生活できるように、幼児の自然な遊びの生活の中で次のような基本的動きをも順序よく取り入れて経験させるようにしたいと思う。

それは歩く・走る・とぶ・動物のまねなどの自由な動きである。そして弛緩や緊張の簡単な動きや柔軟な運動で手足や関節を自由に動かすこと、なお敏捷さと統一が必要であると思う。

このようないろいろの方法を研究して確かに順序により、しかも先をあせることなく自然の生活の中で楽しいリズミカルな表現遊びを展開するようにしたい。単なる自然の模倣に止まることなく無限に創造し伸びうる世界へと一步を進めていくように導かねばならない。

### (2) 幼児体操

これまで実施した幼児体操を分析した結果を小学校指導要領体育の徒手体操に関連づけて、幼児の能力による可能性を考え、その指導のため無理のない程度で、しかもその時期の成長発達の芽をじゅうぶんに育てられるように運動を分析研究し系統的に年間に経験内容を排列してみた。要点のみを次に述べてみよう。

幼児体操の年間指導内容一覧表

月	年間指導内容
四月	○合図によつて早く集り、模倣運動の簡単なものをする。
五月	○親しみの多いテレビによる体操など進んでする。 ○しゃがんだり、立つたりする動作を自由にする。
六月	○みんなといつしょに元気よく体操をする。 ○運動のあと手洗いを進んでする。
七月	○片足または両足でとんだり、休んだりする。 ○運動のあと汗をふいたり、手足を気持ちよく洗う。
八月	○足を大きく開いたり、片手をすりあげながら、からだを左右に曲げる。
九月	○合図によつて早く集る。
十月	○腕をからだを前に曲げ両足の間からぞいしたり、からだを後ろにそらしてみようとする。 ○運動する場所の小石や危険物をみんなで除く。
十一月	○腕を自然に振る。
十二月	○人のじゅまをしないように、リズムに合わせて動く。 ○みんなで楽しく運動をする。 ○健康安全のきまりを守るようにする。
一月	○リズムに合わせて幼児体操に興味をもち、動きをはつきりとする。 ○合図によつて早く集り運動のできやすい体型を自由に作る。
二月	○気持ちよく幼児体操などをして、からだのこなしを自由にする。
三月	○いろいろな幼児向きの体操を喜んでしてからだを全身的に、総合的に動かしてみようとする。

運動は常に生理的にも発育的にも適切な方法や時間を考えねばならない。

幼児の体操はこれまで実施したものだけでも数種類あったが、この選択にあたっては幼児の生活に即して現在の興味や要求や必要から適切なものを用意することである。しかし積極的運動を重視すぎ過ぎ度の運動や高度の技術などは厳に慎み、幼児が楽しく動き、しかも自由にからだをこなして、リズミカルにのびやかに動けるものを選択する。動ける、癖のないからだにするために。

ソ連の「体育とスポーツ」という本に幼稚園の朝の体操などが述べられているが、これには幼児の能力に適合した運動を行なわせ、胸や背の筋、腹圧、手の筋、足の筋、そして全身の筋の発達をねらって簡単な体操が五分から七分程度、なるべく戸外において毎日行なわれているように述べられている。

項目に与えられた運動の評価からは、直接関係のないことを述べてきたが、これまでの歩みの中に、これから幼稚園教育要領の健康のうち、運動についての具体的評価のあり方が漠然とでもくみ取つていただけたら幸いと思う。

既に述べたとおり、わたくしどもの園における年間指導計画のもとに日々幼稚園の現場での実践的研究の結果を明らかにしたが、これは初めて期待していた程のものにならず、ここに改めて一か年の教育活動を反省し、そして評価の方法もいっそく研究してみる必要があると考える。しかしこれは幼児のひとりびとりや全体の生活場面での真の生き方であり、これから教育的系統や効果的指導方法を生みだすたいせつなものとしてこれを土台に今後の研究を進めたいと考えている。